

2025 年度 1 学年進路通信 Vol.4

関東第一高等学校

校長 乙幡和弘

監修 進路指導部

7月1日(火)発行

本日をもって、第2回定期考査が終わりました。授業で学んだこと、家庭学習で復習したことを存分に発揮できたでしょうか。定期考査は終わりましたが、気を抜いている暇はなく、11日(金)には進研模試(ハイパー・アドバンストコース対象)・実力診断テスト(アグレッシブ・アスリートコース対象)が控えています。高校における学習はまだ3カ月分しか学んでいませんので、中学校3年間で学んだことの定着度も合わせて現在の学力を測ります。模試の出来不出来によっては、中学校の既習範囲の復習に夏休みの時間を充てるのもいいでしょう。

○実力診断テストの範囲(英語はリスニングを選択、数学は自由選択、国語は選択問題なし)

記述式

実力診断テスト 1・2年生

※英語スピーキング、基礎・活用は毎年同じ問題を使用します。

網掛け部分が各教科の選択問題です。

国語(50分) 100点				
	1年生			2年生
	6月	10月	1月	各回共通
大問1	現代文・知識	現代文・知識	現代文・知識	現代文・知識
大問2	古文・知識	現代文・評論	現代文・評論	現代文・評論
大問3	現代文・評論	現代文・小説	現代文・小説	古文
大問4	現代文・小説	古文	古文	現代文・随筆
大問5		現代文・随筆	現代文・随筆	漢文
大問6				現代文・小説
備考		大問4・5 から1題選択		大問3・4から1題選択 大問5・6から1題選択

英語(50分) 100点	
	各回共通
大問1	リスニング※
大問2	会話表現
大問3	文法・語い語法
大問4	読解
大問5	表現力
備考	大問1・2から1題選択

※リスニングテストの所要時間は約11分です。

英語スピーキング 10点	
	各回共通 学校採点※
大問A	やり取り 身近な話題について英語でやり取りする
大問B	発表 スクリプトにそって、聞き手に伝わるように読む
大問C	発表 与えられた絵や図表について英語で説明する

※1人当たりの所要時間は約8分、生徒の解答時間は約5分です。
※実力診断テストには英語スピーキング（学校採点）が付属しています。ご実施は任意です。

数学(50分) 100点						
	1年生6月	1年生10月	1年生1月	2年生6月	2年生10月	2年生1月
大問1	中学校の範囲	中学校の範囲、数と式Ⅰ	数と式、2次関数Ⅰ※	数学Ⅰの範囲Ⅰ※	数学Ⅰの範囲Ⅰ	数学Ⅰの範囲Ⅰ
大問2	中学校の範囲	中学校の範囲、数と式Ⅰ	数と式、2次関数Ⅰ※	数学Ⅰの範囲Ⅰ※	数学Ⅰの範囲Ⅰ	数学Ⅰの範囲Ⅰ
大問3	中学校の範囲 (関数のグラフ)	中学校の範囲 (図形)	数と式Ⅰ	数と式Ⅰ	2次関数Ⅰ	2次関数Ⅰ
大問4	中学校の範囲 (図形)	数と式Ⅰ	2次関数Ⅰ	2次関数Ⅰ	図形と計量Ⅰ	図形と計量Ⅰ
大問5	数と式Ⅰ	2次関数の最大・最小Ⅰ	図形と計量Ⅰ	場合の数と確率Ⅰ	場合の数と確率Ⅰ	図形の性質Ⅰ
大問6		2次関数のグラフと2次不等式Ⅰ	場合の数と確率Ⅰ	図形の性質Ⅰ	式と証明、複素数と方程式Ⅱ	三角関数Ⅱ
大問7		場合の数Ⅰ	図形の性質Ⅰ	式と証明、複素数と方程式Ⅱ	図形と方程式Ⅱ	微分法Ⅱ
大問8					数列Ⅱ	数列Ⅱ
備考	大問4・5 から1題選択	大問3～7から2題選択			大問3～8から2題選択	

※中学校の範囲の内容を含むことがあります。

(ベネッセハイスクールオンラインより引用)

○進研模試(総合学力テスト)の範囲(英語はリスニングを選択、国語は実用的文章を選択、数学は自由選択)

高1生7月 ペネッセ総合学力テスト 今回のテストのご紹介

今回のテストの指導上の位置づけ

今回のテストは、高校入学後3か月経過した時点での学力を測定します。学年・クラス・生徒の学力特性を明らかにし、9月以降の教科指導や文理選択指導の判断材料などにご利用いただけます。生徒には自分の学力を把握させ、中学生気分からの脱却を促します。夏休みの学習の動機づけにもご利用いただけます。

配点・試験時間

出題教科	配点	試験時間
国語	100点	60分
数学	100点	80分
英語	100点	60分

英語(リスニング)の出題形式／選択問題として出題(学校単位での選択)

- ①リスニング ②会話表現 ①か②の選択問題です。配点は22点です。
- ・リスニングテストは英語の試験時間の最初に実施してください。所要時間は約11分です。
 - ・①リスニング・②会話表現はいずれか一方の選択のため、実施時に注意してください。
 - ・学校やクラス単位で選択をそろえる場合には、学校・クラスに周知いただくようお願いいたします。
 - ・①リスニング・②会話表現を両方解答している場合は、得点の高い方で成績集計を行います。

時間割例

時間割は、貴校のご都合にあわせて調整してください。下記の例は、参考としてご覧ください。

受験カード記入	国語	数学	英語
8:40～9:00	9:00～10:00	10:10～11:30	11:40～12:40
20分	60分	80分	60分

出題範囲と出題方針

- 出題範囲は、履修形態や進捗状況についてのアンケート結果に基づいて決定しています。
- 試験の公平性の見地から、出題範囲の取り扱いには十分ご配慮ください。
- 出題範囲とは、各教科・科目とも出題の対象となる範囲のことをいい、含まれるすべての分野・内容を出題することではありません。

出題教科	出題科目・範囲	出題方針
国語	[必答問題] ㊦現代文・論理的文章 ㊦現代文・文学的文章 ㊦古文 [選択問題] ㊦漢文 ㊦現代文・実用的文章)より1題選択	現代文・古典にかかわらず、読解力・記述力を問う出題をします。また、古文の文法においては、履修進度に合わせ、用言の活用までの範囲から出題します。
数学	[必答問題] ①～③数と式(集合と命題は除く)(I) [選択問題] ④2次関数(最大と最小まで)(I) ⑤場合の数(順列・組合せ)(A) ⑥図形の性質(空間図形は除く)(A) より1題選択	数と式を中心に出题します。また、基本事項の確認から応用力を必要とするレベルまで幅広い難易度で出題しますので、各学力層の到達度を測ることができます。
英語	[選択問題] ①リスニング)より1題選択 ②会話表現 [必答問題] ③文法・語法 ④長文読解 ⑤長文読解 ⑥表現力	中学校3年間と高校入学後3か月間で学んだことが定着しているかどうかを確認します。文法・語法などの基本事項から長文読解や表現力といった応用力が必要なものまで出題します。また、リスニングも選択問題として出題しますので、低学年から音声面・聴きとり能力についての評価が可能です。

※英語①リスニングの所要時間は、約11分を目安にしています。

(ペネッセハイスクールオンラインより引用)



【参考】「マナビジョン」に、志望校と目標得点を登録することもできるよ

①「マナビジョン」ログイン後、
[テスト・教材] > [進研模試／
ペネッセ総合学力テスト]をタップ

②「やることリスト」から志望校と目標得点を登録



Step2 で調べた「気になる・知っている・懂れている」大学を

Step3 で設定した目標得点をそれぞれ登録しよう

○今回の模試の偏差値は大学受験においてどこまで参考になるの？

高校受験を終えてまだ半年も経っていないので、その当時の模試の成績や偏差値は何となく記憶にあったり、成績資料が残っていたりすると思います。高校受験時の偏差値が大学入試の偏差値にそのまま当てはまるかという、そのようなことはありません。高校受験時の模試の偏差値が 60 だからといって、青山学院大学経済学部現代経済学科(河合塾合格可能性 40～60%偏差値 60)に受かるわけではないということです。

一般的に高校の偏差値－10 前後＝大学の偏差値といわれています。高校入試は勉強が苦手な生徒も含めてほとんどの中学生が受験することになります。そのため、平均点も下がり、偏差値 50 は取りやすい状況にあります。一方、大学入試は同世代の 60%前後が受験します。一般的に勉強が苦手な生徒は推薦入試を選んだり、専門学校への進学といった道を歩むので、大学一般入試にはそれなりに勉強ができる生徒が臨みます。また、高校受験時にライバルとして存在していなかった中学受験組、浪人生が大学一般入試に加わるので、高校受験生よりも母集団のレベルが上がるため平均点も高くなり、高校入試に比べれば偏差値 50 の水準も高くなるのです。日東駒専と呼ばれる大学群(日大・東洋・駒澤・専修)は一般的に「偏差値 50 前後」「平均的な立ち位置の大学」と捉えられがちですが、同世代全体で見ると上位 25%～30%ほどの立ち位置となります。三者面談等でも親子から「最低でも日東駒専レベルには…」という話をされることがよくありますが、実はそれほどたやすく受かるような大学ではないことを把握しておいてください。

また、受験する模試によっても算出される偏差値は異なります。上記に高校受験生と大学受験生の母集団が違ふとあるように、受験する模試によって母集団が異なるからです。本校では高2秋までベネッセ進研模試、高2冬からは河合塾模試を受験します(1・2年生の間もコースや希望により河合塾の模試を受験することはあります)。

ベネッセ進研模試は個人申込はできず、学校単位での申し込みとなります。そのため、浪人生は基本的に受験しません。浪人生が不在で、受験者数が多く受験者の学力範囲が広いため、河合塾模試よりも偏差値は高めに出ます。例えば、明治大学法学部のベネッセ模試の偏差値は 67(合格可能性 40～60%)、河合塾模試の偏差値は 60(合格可能性 40～60%)です。ベネッセ模試の偏差値 60(合格可能性 40～60%)の大学だと明治学院大学法律学科があります。同じ偏差値 60 でも模試ごとにデータを確認しないと、志望校の合格可能性も大きく異なるので、気を付けなくてはなりません。また、大学ごとの偏差値についても、

高校受験と大学受験の偏差値の違いのイメージ

河合塾模試の偏差値 60 あれば明治大学法学部に受かる保証があるというわけではありません。平均偏差値 60 ある生徒が受験して合格する可能性は 40%～60%、という数値です。こちらも数字の扱いを見誤ってしまうと、滑り止めの予定で受験した大学のはずが、滑り止めの扱いではないといった場合があるので気を付けましょう。



高校受験	大学受験
	大学一般入試進学者
	偏差値50
偏差値50	大学推薦入試進学者
	非大学進学者 (就職、専門、その他)

○2025 年度卒業生の合格体験記より(クラスルームに配信予定の『明日へのガイドマップ 2025』より抜粋)

まもなく『明日へのガイドマップ 2025』という関東第一高等学校オリジナルの受験読本がクラスルームに配信されます。熟読して、少しずつ大学入試に臨む気持ちを創っていきましょう。この中に掲載されている卒業生の合格体験記には、皆さんに対してのメッセージもたくさんあります。悔いのない進路先を選択するため、志望する大学に合格して歩みたい道を歩めるように、よく目を通して、どういう勉強法を取り入れるのか、どの参考書を使うのか、何をモチベーションに頑張るのか、参考にしましょう。

- ・受験について私から一つアドバイスするなら、日々の授業をしっかり受けることです。私が共通テスト本番で 8 割を超え、第一志望の大学に合格することができたのは、高 1 や高 2 で授業を 真面目に受けていてある程度の地力があったからだと思います。
一度理解したものを思い出す労力と、初めて何かを理解する労力では、後者のほうが段違いに大きいです。だからこそ、受験期までに忘れてしまっても良いので、授業の段階で一度理解しておくことが重要であると私は考えます。(千葉大学進学)
- ・早いうちから受験勉強を始めるべきでした。睡眠を削るべきではなかったと思います。たくさん寝た方が頭に入りやすいし、集中力も長く保てることは分かっていましたが、周りに追いつくために睡眠を削った結果、病院に行くことになったので本当にお勧めしません。(中央大学進学)
- ・勉強をもっと早めに始めるべきでした。自分も周りの友達もみんな言っているのが、もっと早く始めればよかった！！です(駒澤大学進学)
- ・一般と総合型の両立が難しく、もっと前からやっておけば...と何度も思いました。(東洋大学進学)
- ・高校に入ったときから大学について考えておけばもう少し準備するのに余裕が持てたと思う。(順天堂大学進学)

毎年、上記のように、「早く勉強をしておけば…」 「1 年生から少しでも学習習慣をつけていれば…」 という後悔の念が綴られています。皆さんはこのような文章を見て、何を感じるでしょうか。

ドイツを統一国家に導いたオットー・フォン・ビスマルクは「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉を残しています。「愚者」は自分で失敗して初めて失敗の原因に気づき、その後同じ失敗を繰り返さないようになるという意味で、これでは経験したことからしか学べません。それに対し、「賢者」は自分が経験できないことも先人たちが経験したこと、すなわち歴史を学ぶことで多くの経験を身につけることができるのです。すなわち、賢者は過去の他人の失敗から学び、同じ失敗をしないようにするというわけです。皆さんも先輩たちからの失敗から学ぶ「賢者」でいられるように、日々の取り組みをふり返ってみてください。